

第 7 期 事 業 報 告

事業記録

(竜)は竜串自然再生、(竹)は竹ヶ島海中公園自然再生に関わる事業

日付	内容	備考	担当
平成18年4月	1日 野澤研究員採用	常勤研究員として	
	20日 研究船「つきなだ」定期ドック(～5月10日)		中地
	25日 CURRENT 24号(Vol. 7, no. 1)発行		中地
	28日 研究所磯遊び	地域住民と共に磯遊び	
5月	4日 黒生研ニュース(06-04)配信		岩瀬
	9日 四国南西部サンゴ加入量調査・着生板設置(愛媛県愛南町～土佐清水市)(～6月3日)	東海大学・研究所 共同研究 モニタリングサイト1000事業関連	東海大
	11日 大月町立 檜西小学校総合学習 第1回	「磯の生き物調べ イソリンピック」	中地
	15日 土佐清水市立 下ノ加江中学校 環境学習	「アカウミガメの生態および保護について」	田中
	17日 黒生研ニュース(06-05)配信		岩瀬
	18日 (竜) 土佐清水市立 三崎小学校環境学習 第1回	「サンゴの話」	中地
	24, 30～31日 (竜) 5月現地調査(土佐清水市竜串)		中地
	25日 (竜) 平成18年度第1回技術支援委員会(高知市)		岩瀬・中地
	27～28日 (竹) リーフチェック完喰(海陽町竹ヶ島海域)	BSAC JAPAN主催 岩瀬はチーム科学者として参加	岩瀬
	30日 平成18年度第1回通常理事会(高知市)		
6月	1日 (竹) 第3回専門部会(徳島市)		岩瀬
	2日 (竹) 第4回自然再生協議会(海陽町)		岩瀬
	5日 平成18年度第1回通常評議員会(研究所)		
	8日 (竜) 土佐清水市立 三崎小学校環境学習 第2回	「サンゴの話」サンゴの産卵と成長 さんご占い」	中地
	10日 黒生研ニュース(06-06)配信		岩瀬
	12日 サンゴ産卵夜間調査開始(～9月3日)	研究所と東北大学旨崎共同研究	岩瀬
	13日 大月町立 檜西小学校総合学習 第2回	「黒潮生物研究所の取り組みとさんごの話」	中地
	21日 (竜) 調査担当者合同打合せ会(高知市)		岩瀬・中地
	22日 (竜) 土佐清水市立 三崎小学校環境学習 第3回	「海藻ジャンケンで遊ぼう」	田中
	26日 (竹) サンゴ加入量調査(着生板取り付け)		岩瀬
	エダミドリイシ採卵説明会(海陽町竹ヶ島)		岩瀬
	30日 黒生研ニュース(06-07)配信		岩瀬
7月	1～31日 牧野植物園特別展「滅びゆく野生生物展」(高知市)	高知県におけるウミガメの生息状況を展示協力	田中
	2日 青年会議所高知ブロック研修会・海洋実習(研究所)	「私たちの海と造礁サンゴについて」	中地
	7日 (竜) 第6回自然再生調整会議(土佐清水市)		岩瀬・中地
	10日 大月町立 檜西小学校総合学習 第3回	「磯の生きもの調べ」	中地
	11～12日 大月町立 大月中学校職場体験(研究所)	中学生3名が研究所の仕事を体験	中地・田中 野澤
	12日 大豊町立 大杉中学校 豊かな体験活動推進事業・地域間交流プログラム 海洋体験学習(香南市夜須町)	「海の生き物山の生き物」	岩瀬
	25日 CURRENT 25号(Vol. 7, no. 2)発行		中地
	26～27日 (竜) 7月現地調査(土佐清水市竜串)		中地
	28～29日 (竜) サンゴ種苗竜串に移植放流(土佐清水市竜串)		中地・野澤
	28～30日 「なはり海辺の自然学校'06」(奈半利町)	天然資源活用委員会主催 講師として参加	岩瀬

日付	内容	備考	担当	
8月	10~12日	第5回黒潮生物研究所小学生サマースクール ~君も小さな研究者~(研究所)	黒潮生物研究所主催 大月町共催 参加者41名	中地・全職員
	23日	四国南西部スポットチェック調査 (愛媛県愛南町~土佐清水市)(~9月28日)	東海大学・研究所 共同研究 モニタリングサイト1000事業関連	東海大
	24日	(竜) 平成18年度第2回技術支援委員会(高知市)		岩瀬・中地
	29日	(竹) 第4回専門部会(徳島市)		岩瀬
	30日	(竜) 土佐清水市立 三崎小学校環境学習 第4回	「竜串のサンゴを見てみよう」 スノーケリング体験	中地・田中
	31日、 9月6日	「サンゴ博物館」収蔵標本整理 (土佐清水市竜串)	自然再生フォーラムに向けて	中地
9月	1日	ライマー 研究員採用	平成20年3月までの期間契約研究 員として	
		黒生研ニュース(06-08)配信		岩瀬
	3日	サンゴ産卵夜間調査終了		
	8日	(竜) 平成18年度第3回技術検討委員会 (土佐清水市)		岩瀬・中地
	8~27日	四国南西部サンゴ加入量調査 着生板回収 (愛媛県愛南町~土佐清水市)	東海大学・研究所 共同研究 モニタリングサイト1000事業関連	東海大
	9日	(竜) 竜串自然再生協議会設立総会(土佐清水市)	岩瀬が会長代理に就任 岩瀬はパネルディスカッションで コーディネーター、中地はエクスカー ションの講師	岩瀬・中地
	9~10日	(竜) 竜串自然再生フォーラム(土佐清水市)		岩瀬・中地
	10日	土佐清水市立 下ノ加江中学校 「子ガメの放流会」	「日本産のアカウミガメの回遊につ いて」	田中
	20、28日	(竜) 9月現地調査(土佐清水市竜串)		中地
	23~25日	「海辺の達人養成講座 in 奈半利」 (奈半利町)	国土交通省四国地方整備局主催 講師として参加	岩瀬
	24日	サンゴ種苗尻貝に移植放流(大月町尻貝)	足摺宇和海国立公園大月地区パ ークボランティアの会に種苗を供給	田中
	(竜)	土佐清水市観光ボランティア会定例会で講 演(土佐清水市養老)	「竜串の海と造礁サンゴ」	中地
	30日	平成18年第1回幡多アカデミー(黒潮町大方)	シンポジウム「幡多地域大学を考 える」シンポジストとして参加	岩瀬
10月	2日	(竹) サンゴ加入量調査(着生板回収) 中間育成のためエダミドリイシ種苗取り付け		田中・中地
	3日	竹ヶ島スポットチェック調査(海陽町)	NPO法人あど未来と共同調査 モニタリングサイト1000事業関連	田中・中地
		黒生研ニュース(06-09)配信		岩瀬
	4日	牟岐大島スポットチェック(徳島県牟岐町)	クラブアむぎと共同調査 モニタリングサイト1000事業関連	田中・中地
	6~8日	第2回刺胞動物等談話会(千葉県立中央博 物館分館海の博物館 勝浦市)	野澤・ライマー 口演発表	岩瀬・野澤 ・ライマー
	11日	(竹) 第5回専門部会(徳島市)		岩瀬
	12日	(竹) 第5回自然再生協議会(海陽町)		岩瀬
		サンゴ食巻貝駆除(愛媛県愛南町)	宇和海海中資源保護対策協議会 に協力	田中
	13日	(竜) 土佐清水市立 三崎小学校環境学習 第5回	「足摺海底館を知る・竜串の魚たち」	中地
	19日	(竜) 全体構想ワーキンググループ第1回会合 (土佐清水市)	中地が座長に就任	中地
	21日	奈半利スポットチェック調査(奈半利町)	天然資源活用委員会と共同調査 モニタリングサイト1000事業関連	田中・目崎
	25日	CURRENT 26号(Vol. 7, no. 3)発行		中地
	31日	黒生研ニュース(06-10)配信		岩瀬

日付	内容	備考	担当
11月	8日 (竜) 全体構想ワーキンググループ勉強会 (土佐清水市)		中地
	13日 (竜) 土佐清水市立 三崎小学校環境学習 第6回 全体構想ワーキンググループ勉強会 (土佐清水市)	「海底館ガイドの練習をしよう」	中地
	15日 (竜) 魚類相調査(土佐清水市)(~12月7日)	黒潮実感センターに外注	黒潮実感 センター
	15日 土佐清水市立 中の浜小学校 特別授業	「私たちのそばにいる海の生き物たち」	田中
	16日 サンゴ幼体中間育成用筏設置(大月町西泊)		野澤
	18日 オニヒトデ駆除(櫻西海中公園)	ボランティア作業	
	21日 (竜) 土佐清水市立 三崎小学校環境学習 第7回	「海底館のガイドをしよう」	中地
	24~26日 日本サンゴ礁学会第9回大会 (東北大学, 仙台市)	岩瀬・野澤・ライマー ポスター発表	岩瀬・野澤 ・ライマー
	25日 オニヒトデ駆除(櫻西海中公園)	パークボランティアと	
	29~30日 (竜) 11月現地調査(土佐清水市竜串)		中地
12月	3日 オニヒトデ駆除(櫻西海中公園・西泊松箸)	パークボランティアと共同	
	5日 大月町立 周防形小学校 環境学習	「大月の海と身近な魚」	中地
	13日 オニヒトデ駆除(土佐清水市大浜)	自主事業	
	16日 オニヒトデ駆除(櫻西海中公園・西泊松箸)	パークボランティアと共同	
	18日 (竜) 全体構想ワーキンググループ第2回会合 (土佐清水市)		中地
平成 19年 1月	6日 黒生研ニュース(07-01)配信		岩瀬
	8~12日 フッ酸を使った標本処理実験 (堺市 ステラケミファ三宝工場)		ライマー ・中地
	17日 (竜) 第2回自然再生協議会(土佐清水市)		岩瀬・中地
	25日 CURRENT 27号(Vol. 7, no. 4)発行		中地
	25, 28日 (竜) 1月現地調査(土佐清水市竜串)		中地
	27日 黒生研ニュース(07-02)配信		岩瀬
2月	1日 平成19年度助成研究募集(~28日)		岩瀬
	5~6日 自然再生協議会情報連絡会議(山口市)	環境省主催(西日本の自然再生協議会等の情報交換会議)	岩瀬
	(竜) 竜串自然再生調査打合せ(岡山市)	環境省中国四国地方環境事務所	
	23日 高知県立宿毛高校 校外学習(研究所)	「私たちの海とサンゴ」	中地
	26日 宿毛市立栄喜小学校 環境学習		中地
	(竜) 全体構想ワーキンググループ勉強会 (土佐清水市)		中地
3月	1~2日 (竜) 海藻相調査(土佐清水市竜串)	高知大名誉教授大野先生に外注	田中
	2日 植樹イベント「漁師と子供の森づくり」で講演 (宿毛市 どんぐり湖)	すくも湾漁協主催 ダム湖にクヌギの植樹	野澤
	13日 平成18年度第2回通常理事会(大阪市) 平成18年度助成研究発表会 (泉大津市 ステラケミファ泉工場)	助成者6名 口演発表	
	(竹) 第6回専門部会(徳島市)		岩瀬
	(竹) 第6回自然再生協議会(海陽町)		岩瀬
	16日 モニタリングサイト1000事業サンゴ礁モニタ リング ワーキンググループ委員会(東京都)	環境省・(財)自然環境研究センター 主催	岩瀬
	19日 平成18年度第2回通常評議員会(研究所)	助成研究発表会のビデオを上映	
	(竜) 全体構想ワーキンググループ第3回会合 (土佐清水市)		中地

日付	内容	備考	担当	
3月	20日	足摺宇和海国立公園サンゴ等現況調査報告会(宿毛市)	環境省中国四国地方環境事務所主催	岩瀬・中地
		(竜) 竜串観光振興会例会で講演(土佐清水市)	「竜串のサンゴと自然再生について」	中地
	20~22日	日本生態学会第54回大会 (愛媛大学 松山市)	野澤 ポスター発表	野澤
	22日	オニヒトデ駆除(沖ノ島海中公園)	ボランティア作業	
	24日	第31回日本藻類学会(神戸大学 神戸市)	田中 ポスター発表	田中
	26日	(竜) 3月現地調査(土佐清水市竜串)		中地
	27日	(竜) 平成18年度第3回技術支援委員会(高知市)		岩瀬・中地
	30日	Kuroshio Biosphere Vol. 3発行		野澤
31日	ライマー研究員退職	琉球大学助手に採用されたため		

事業の内容

1 研究事業

(1) 造礁サンゴ類の増殖に関する研究

西泊地先におけるイシサンゴ類の生殖周期および産卵生態に関する研究

研究所のある西泊地先海域において、生殖腺の発達過程を調査する目的で5種のサンゴについて定期的に標本を採取し、組織学的な検討を加えた。また、実際に夜間に産卵状況を観察し、6月中旬から9月上旬の間に6科12属25種の産卵を確認した。これら基礎的な調査を通して8種の配偶子と2種の保育幼生を得ることができ、これらを用いて種苗生産技術の開発、幼生の生態学的研究や、分類学的に問題のある種の交配実験などを行った。

造礁サンゴ類の種苗生産技術の研究

西泊地先で採卵されたクシハダミドリイシ、エンタクミドリイシ、ミダレノウサンゴ、フカトゲキクメイシの4種と徳島県海陽町で採卵されたエダミドリイシのサンゴについて増殖種苗の生産を試み、平成19年3月末現在で合計約240群体が生残している。なお、この研究の一部は平成18年度竜串地区自然再生事業海域調査業務および平成18年度竹ヶ島海中公園海陽自然再生事前調査の業務として行われた。

イシサンゴ類幼体の生態に関する研究

上記研究により作成された種苗(イシサンゴ類幼体)を用いて、幼体の生存率と基盤の定位の関係について研究を行った。

イシサンゴ類の栄養に関する研究

造礁サンゴの中には、ほとんど経口餌料を必要とせず共生藻に依存して生活している種類と、共生藻だけでなく経口餌料にも依存して生活している種類があるものと考え、西泊地先海域に分布している13種の造礁サンゴ類の現存量あたりクロロフィル量および共生藻密度を計測した。本研究は岩瀬の博士論文研究の一部として行われた。

(2) 高緯度域の造礁サンゴ群集の分布と動態に関する研究

四国のサンゴ群集の分布状況調査

昨年度に引き続き、東海大学・天然資源活用委員会・NPO法人あど未来・クラブノアむぎな

どと共同で四国東岸～南岸～西岸のサンゴ群集の概要を把握するため、37ヶ所でスポットチェック法によるサンゴ等生育状況の調査を継続した。本調査の一部は環境省によるモニタリングサイト1000事業として行われた。

四国におけるサンゴ類加入状況の調査

昨年度に引き続き東海大学と共同で着生板を用いたサンゴ類加入状況調査を実施した。今年度も全般にミドリイシ類の加入が少なく、ハナヤサイサンゴ類の加入が多いという温帯海域の一般的な傾向が見られた。本調査の一部は平成18年度竜串地区自然再生事業海域調査業務および平成18年度竹ヶ島海中公園海陽自然再生事前調査の業務として行われた。

熊本県天草におけるサンゴ群集の動態についての調査

高緯度域には多くのイシサンゴ群集が存在するにも関わらず、その群集の動態についての研究はほとんど行われていない。そのため、高緯度イシサンゴ群集の維持機構を明らかにし、保全管理に資するため2002年より熊本県天草において「高緯度サンゴ群集の変動」についての研究を継続している。2006年は9月中旬に5年目の調査を行った。本研究は野澤が九州大学大学院在学中から継続している研究。

(3) 四国の海藻植生等に関する研究

高知県西部海域の海藻植生に関する研究

近年、高知県西部海域では温暖化の影響により海藻植生が変化していると言われている。しかし、これらはすべて大型の有用海藻を中心に調べられており、中型や小型の海藻まで含めた海藻相全体の変化や群集構造については明らかにされていない。そこで、過去のデータと比較することで種組成の変化を明らかにするため、高知県西部海域の多くの地点で海藻植生の調査を開始した。調査は平成19年度も継続して行う予定。本研究は田中が修士研究の一部として行っている。

高知西部海域沿岸藻場調査

高知県沿岸の藻場の分布や種組成を明らかにするための調査。船上から箱めがねで海底を観察し、ホンダワラ類やコンブ類等の大型の海藻の分布を調べた。また、必要に応じて海藻類を採集し、藻場の種組成を調べた。高知県水産試験場と高知大学、黒潮生物研究所の3者による共同研究。平成18年度は宿毛湾を中心に10回調査を行い、ガラ藻場の分布と種組成を調べた。結果は共同研究者と協力して現在分析中。

カジメ移植実験

大月町、すくも湾漁協、研究機関、一般企業などによって構成される「海の森作り研究会」による藻場造成試験。平成18年度は大月町西泊と古満目の二地点においてカジメの移植実験を行った。研究所は実験礁のデザインと移植作業、移植後の生残状況調査を担当した。

藻食性魚類による食害は網かごなどを用いれば防げるが、7～8月には高水温によると思われる生育障害が見られ、本海域でカジメ移植による藻場造成を行うことは難しいものと思われた。

テングサ類増殖実験

大月町が行っているテングサ類の増殖事業において、テングサの植え付け方法の考案と指導、植え付け後の生残状況の調査を担当した。マクサ、オバクサ、オニクサの3種の苗をロープに挟み込み、海面から垂下して設置し、水深の違いによる生残状況の違いについて調べた。また、海底に這わせたロープにテングサ類の苗を挟み込む方法も試したが、全ての苗は生残せず、挟み込み法はテングサ類には適さないものと思われた。

(4) ウミガメに関する研究

四国のアオウミガメの食性に関する研究

アオウミガメは、産卵地のある南西諸島においては主にアマモ類などの海草などを食べて生活していると言われているが、四国沿岸にはアマモ類の生える藻場は少なく、生息しているアオウミガメが何を食べているのかこれまでに明らかにされていない。そこで、昨年までに引き続き、混獲や漂着による死亡個体を解剖し、消化管内容物を調べている。これまでのところ、マクサをはじめとする紅藻類が多く見られている。

(5) その他

スナギンチャク類の分類に関する研究

スナギンチャク目は形態的な分類形質に乏しく、その分類および系統は未だ明らかになっていない。そこで足摺宇和海海域、および他の海域においてスナギンチャク類を採取し、形態分類および遺伝子分類の両方の手法を用いて分類を行うことを試みた。本研究はライマーが黒潮生物研究所と海洋研究開発機構の2ヶ所に籍を置き、両施設を利用して行っている研究。

フッ酸を使ったスナギンチャク類の組織切片作成方法の検討

スナギンチャク類は体壁中に砂粒を取り込むため組織切片を作ることができず、分類や生理の研究に大きな障害となっていた。そこでスナギンチャク類の標本をフッ酸で処理することにより、体内に取り込まれた砂粒等を除去する方法の検討を行った。実験はステラケミファ研究部の協力を得て、大阪府堺市にあるステラケミファ三宝工場で行われた。ホルマリン固定、脱灰処理済みの標本を様々な濃度や系統のフッ酸溶液に段階的に浸し、処理液、処理の時間、中和・洗浄処理方法等を検討した。平成19年度にサンプルの組織切片標本の作成を行い、残存固形物の有無、染色性への影響、組織の損傷度合い等を明らかにし、必要なら追試を行って適正な処理方法を確立する。

足摺宇和海海域のサンゴ食害生物の分布状況に関する研究

足摺宇和海海域におけるサンゴ食害生物の分布状況を明らかにするため、駆除情報の聞き取り調査や被害状況調査、駆除作業の実施と参加、また駆除されたオニヒトデの体長組成の測定などを行い、総合的な情報を収集した。結果の一部は平成17年度管理方針検討調査委託業務報告書にまとめて報告し、また、一部は機関誌 CURRENT 等で公表しているが、総括的にまとめたものを平成19年度に発表する予定。

動植物相の調査

研究所周辺海域の動植物相を明らかにする目的で、標本の採集を行い、標本として整理・保存し、動植物相の基礎資料づくりを継続した。今年度は海域の生物のみならず、大月町の陸域で見られる水生植物の調査も開始した。

2 研究助成事業

次世代の研究者、地域と密着した研究者の育成を図ることを目的として、下記の要領で平成17年度に引き続いて平成18年度も研究助成事業を継続した。

助成の対象：黒潮生物研究財団設立の目的に添う研究であれば、研究の実施場所や研究分野は問わないが、営利を目的とするものは対象としない。

応募資格：大学卒論生、研究生、専攻科生、大学院生、その他の研究者。

助成対象となる費用：実験や調査に使用する器具費、材料費、調査に必要な旅費、施設や設備の使用料など、直接研究に必要な費用。

助成規模：1件につき20万円以内。5～6件程度。

助成期間：原則として平成18年4月1日から平成19年3月31日まで。

応募方法：所定の申請書に必要事項を記入し、当財団宛に郵送。

選考方法：当財団の理事及び評議員の審査により、専務理事が採否を決定。

助成を受けた者の義務

- ・ 所定の様式により、研究成果の概要について報告書を提出。
- ・ 助成研究の成果を公表する場合には、財団の助成を受けたことを明記。出版された論文等は、1部を財団宛に送付。
- ・ 財団の主催する講演会において、研究成果について講演する。

以上の要項により助成研究を募集したところ、17件の応募があり、選考の結果、以下の6件の研究に助成金を交付した。

- ・ 甲斐清香（琉球大学 院 理工）
「環境条件がサンゴの生存、成長、繁殖に及ぼす影響～環境に対するサンゴの適応方法の解明～」
- ・ 加藤芽衣（高知大学 院 農）
「サンゴ食巻貝 *Drupella* 類の誘因物質の探索」
- ・ 原口展子（高知大学 院 黒潮圏海洋科）
「高知県西部海域のホンダワラ類の分布変化について」
- ・ 松島夏苗（お茶の水女子大学 院 人間文化）
「巻貝による造礁サンゴ食害：温帯域における新規脅威種の実態調査」
- ・ 的場洋右（高知大学 院 農学）
「サンゴが周辺海域の水質環境に与える影響」
- ・ 宮本麻衣（東海大学 院 海洋）
「四国西南海域における造礁サンゴ群集の動態と幼生加入に関する研究」

サンゴの生態に関するものが3件、サンゴを食害する巻貝に関するものが2件、水温上昇による海藻相の変化に関するものが1件となった。高緯度サンゴ群集に関連する、ホットな問題が多く選ばれた。

平成19年3月13日にステラケミファ株式会社泉工場（大阪府泉大津市）会議室において助成研究報告会を催し、財団理事、ステラケミファ（株）の研究部の社員を中心に20名ほどの前で助成者に研究成果について発表してもらった。なお、研究成果の概略は、財団ホームページ上で公開している。

3 受託調査・事業等

（1）平成18年度竜串地区自然再生事業海域調査業務

発注者：環境省 中国四国地方環境事務所

内 容：竜串湾のサンゴ群集を中心とする生態系再生のためのモニタリング調査およびサンゴ類増殖試験。

期 間：平成 18 年 5 月～平成 19 年 3 月

(2) 平成 18 年度竹ヶ島海中公園海陽 自然再生事前調査

発注者：徳島県から発注を受けたニタコンサルタント株式会社から調査の一部を受注

内 容：徳島県海陽町竹ヶ島及び高知県東洋町甲浦に囲まれた海域においてサンゴ群集を中心とする生態系が変質しつつあるため、自然再生の手法により再生する方策を策定するための調査。海域調査の内、サンゴの分布調査、エダミドリイシの増殖にかか
る調査および増殖試験。

期 間：平成 18 年 8 月～平成 19 年 3 月

(3) 平成 18 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務

発注者：財団法人 自然環境研究センター

内 容：環境省が実施しているモニタリングサイト 1000 事業のサンゴ礁モニタリングのうち、四国沿岸海域のモニタリング調査

期 間：平成 18 年 8 月～平成 19 年 2 月

4 自然再生への取り組み

これまで学識者、調査請負者として関わってきた四国の海域における 2ヶ所の自然再生が、平成 17 年度に「竹ヶ島海中公園自然再生協議会（徳島県海陽町）」が法定協議会として発足したのに続いて、平成 18 年度には「竜串自然再生協議会（高知県土佐清水市）」が発足した。研究所はこれまで同様学識者、調査請負者として関わりると同時に、自然再生事業実施者として積極的に関わることにしている。

(1) 竜串自然再生

その美しい海中景観から足摺宇和海国立公園海中公園地区に指定されている「竜串」の海。しかし、現在、そこに生きるサンゴ群は年々衰退しています。そこで、環境省は、2003 年度から「竜串」で自然再生にむけた取り組みをはじめ、地域のみんなでサンゴの海をとりもどそうとしています。（竜串自然再生プロジェクトホームページより）

当財団は、研究所として協議会の委員に参加し、モニタリング調査やサンゴの増殖試験等の事業を担当しているほか、岩瀬が会長代理および技術支援委員に、中地が全体構想ワーキンググループ座長に選任されている。

竜串自然再生協議会設立総会

期 日：9 月 9 日

場 所：土佐清水市立中央公民館

内 容：竜串自然再生協議会設置要項の承認、協議会委員の承認、会長・会長代理の選出、

今後のスケジュールの承認などが行われた。会長に高知大学名誉教授の大野正夫氏、会長代理に土佐清水市長の西村伸一郎氏と黒潮生物研究所長の岩瀬文人が選出された。また、竜串自然再生全体構想を作成するために参加希望者によるワーキンググループを設置することが決まった。

竜串自然再生フォーラム<シンポジウム> <交流会> <エクスカーショ>

期 日：9月9～10日

場 所：<シンポジウム>土佐清水市立市民文化会館
<交流会>海のギャラリー（土佐清水市竜串）
<エクスカーショ> 竜串湾および周辺

シンポジウム内容：ビデオ「よみがえれ、竜串サンゴの海！」上映、基調報告「自然再生って何？～全国の自然再生の取り組みから～」、パネルディスカッション（コーディネーター：岩瀬）「竜串サンゴの再生へ - 山～川～海、そして地域の役割 - 」

竜串自然再生全体構想作成ワーキンググループ

期 日：（会合）10月19日, 12月18日, 3月19日（勉強会）11月8日, 13日, 2月26日

場 所：土佐清水市竜串

内 容：竜串自然再生の全体的な方向を定める「竜串自然再生全体構想」を作成することを目的に設置された。座長に黒潮生物研究所の中地シュウが選出された。

第2回竜串自然再生協議会

期 日：平成19年1月17日

場 所：土佐清水市立中央公民館

内 容：全体構想の形式や内容について討論した。

土佐清水市立 三崎小学校（5年生）環境教育プログラム

期 日：1～2学期（7回）

テーマ：僕たちの海、私たちの海 ～ふるさとの海を見直そう！～

内 容：竜串自然再生事業の一環として行った環境教育プログラムで、「地域の資源を生かした体験的なプログラムづくりとその実践」、「竜串周辺の集団利用施設の教育的利用促進」、「地域の連携体制構築」などを視野に入れて行った。研究所と環境省土佐清水自然保護管事務所が学校に授業方針・年間授業計画の提案を行い、その後も担任とともに授業内容やすすめ方の検討を行い、アドバイザー、コーディネーターとして関わった。授業のアウトプットとして、11月に足摺海底館で一般の団体客に対して小学生が自然解説を行う「足摺海底館こども解説員」を行い、マスコミにも大きく取り上げられた。2月に行われた竜串自然再生協議会で成果の報告が行われた。

担 当：中地、田中

「竜串サンゴ博物館」の標本の整理と解説員に対する研修・指導

期 日：8月31日, 9月6日

内 容：竜串自然再生フォーラムの実施に向けてサンゴ博物館展示室の海洋生物の標本等の整理再検討を行った。単純な展示位置やラベルの付け間違いについては現場で修正作業を行い、標本の和名・学名等の訂正箇所の細かい内容については詳細な報告書を作成し提出した。また自然再生フォーラムのエクスカーショに向けて当日、解

説活動を行う職員に対する指導を行った。

土佐清水市観光ボランティア会定例会で講演

期 日：9月24日

場 所：海の駅あしずり

対 象：土佐清水市観光ボランティア会メンバー 約20名

内 容：竜串の観光案内を行っている土佐清水市観光ボランティア会定例会（毎月実施）で竜串の海と造礁サンゴに関する講演と意見交換を行った。

担 当：中地

竜串観光振興会の年度末会で講演

期 日：3月30日

場 所：竜串ダイビングセンター

対 象：竜串観光振興会メンバーほか 9名

内 容：竜串観光振興会の年度末会議で竜串自然再生ビデオの放映と竜串のサンゴと自然再生について講演、意見交換を行った。

担 当：中地

(2) 竹ヶ島海中公園自然再生

竹ヶ島海中公園は世界で最も北に位置するイシサンゴの群生地の一つです。黒潮と変化に富む岩礁地形が1年中暖かく、波静かな内湾を生み出し、エダミドリイシ、シコロサンゴ、さらに豊かな魚介類を育てています。ところが、近年海の濁り度が高まり、それに対応するようにエダミドリイシが減少しています。エダミドリイシは穴喰の海を代表するサンゴですが、穴喰の海の健全度を測る重要な指標ともなっています。

竹ヶ島自然再生事業は1980年頃のようにエダミドリイシが元気に育つ海の環境を取り戻そうとする取り組みです。しかし、環境の再生に留まらず、漁業を代表とする水面の有効利用、さらには高波や津波に対する防災へも配慮しながら進めて行く必要があります。そのために、穴喰町の皆様はもちろんですが、東洋町など周辺の皆様のアイデアと母なる海への熱い想いを集めていきたいと考えています。（わしずみ王のくに自然再生プロジェクト～竹ヶ島海中公園自然再生事業～ホームページより）

当財団は、研究所として協議会の委員に参加し、サンゴの増殖試験等の事業を担当しているほか、岩瀬が専門委員に選任されている。

竹ヶ島海中公園自然再生協議会

期 日：（第4回）6月2日，（第5回）10月12日，（第6回）3月15日

場 所：徳島県海陽町（旧穴喰町）穴喰老人憩いの家

内 容：自然再生事業として申し込みのあった事業の審議・承認、部会の活動および事業実施状況の報告、今後の事業の進め方等について審議、承認等を行った。

リーフチェック穴喰

期 日：5月27～28日

場 所：徳島県海陽町（旧穴喰町）竹ヶ島海域

主 催：BSAC JAPAN

内 容：世界的に統一された手法で、レジャーダイバーによってサンゴ礁の健全度を調べる

プログラム。

担 当：岩瀬（チーム科学者）

5 啓蒙・広報活動

（１）第五回黒潮生物研究所サマースクール - きみも小さな研究者 -

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

共 催：大月町・大月町教育委員会

後 援：高知県・高知県教育委員会・愛媛県教育委員会

期 日：平成 18 年 8 月 10～12 日（2泊3日）

場 所：大月町西泊 黒潮生物研究所

参加者：高知県幡多地域、愛媛県南予地域の小学 4～6 年生 41 名

主なプログラム：イカスミ絵はがきづくり、ひろいもの芸術祭、磯の生き物しらべ、海水浴、クイズラリー、飯盒炊さん、テントで宿泊、肝だめし、キャンプファイアー 等

（２）機関誌「CURRENT」出版

平成 18 年 4 月 25 日に 24 号（Vol. 7, no. 1）、7 月 25 日に 25 号（Vol. 7, no. 2）、10 月 25 日に 26 号（Vol. 7, no. 3）、平成 19 年 1 月 25 日に 27 号（Vol. 7, no. 4）の 4 回、予定通り刊行した。平成 19 年 1 月現在、168 ヶ所に発送している。

（３）学術誌「Kuroshio Biosphere : Bulletin of the Biological Institute on Kuroshio」出版

平成 19 年 3 月 30 日に第 3 号を出版した。国内 112 ヶ所、国外 94 ヶ所の教育機関・研究機関等に発送した。



（４）黒生研ニュースの配信

平成 16 年 10 月から配信をはじめた黒生研ニュースを、5 月 4 日、5 月 17 日、6 月 10 日、6 月 30 日、9 月 1 日、10 月 3 日、10 月 31 日、1 月 6 日、1 月 27 日の 9 回配信した。内容は研究所の運営状況や調査・研究の状況、研究者や学生による利用状況等、身近な情報で、下記の対象に電子メール、FAX、文書で配信している。

配信先：財団役員、財団評議員、財団職員、高知県庁関連機関、環境省関連機関、大月町関連機関、漁業協同組合、寄附をいただいた方々 等

(5) 教育機関への協力

大月町立 樫西小学校 総合的な学習の時間(全校生徒)

期 日：第1学期(3回)

場 所：樫西小学校、黒潮生物研究所、研究所前の浜

テーマ：磯の生き物しらべとサンゴの学習

内 容：単に授業の講師を務めるだけでなく、発展性・継続性を持たせた授業を展開し、より高い教育効果を上げるため、出来る限り、授業の計画段階から関わり、方向性やすすめ方に対する提案やアドバイスを学校側に対して行った。

担 当：中地

大月町立 周防形小学校 環境学習(4年生)

期 日：12月5日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：「周防形を知ろう」というテーマで行っている学習の一環として。周辺海域の様子の紹介、近隣の海で獲れる魚についての講義と魚の観察(解剖)を行った。

担 当：中地

土佐清水市立 中の浜小学校 環境学習(全校生徒と父兄)

期 日：11月15日

場 所：中の浜小学校

内 容：土佐清水市に生育しているサンゴ、オニヒトデ、アカウミガメ、アオウミガメなどの生態について解説した。

担 当：田中

宿毛市立 栄喜小学校 環境学習(3~6年生12名)

期 日：2月26日

場 所：栄喜小学校

内 容：顕微鏡を用いた、海や川、水たまりなどにいる小さな生物の観察。

担 当：中地

大月町立 大月中学校 職場体験(3年生3名)

期 日：7月11~12日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：中学生3名が、ウミガメの骨格標本作りやヒメアサリの生息状況調査など研究所の仕事を体験した。

担 当：中地、野澤、田中

土佐清水市立 下ノ加江中学校 環境学習(全校生徒と一般)

期 日：5月15日、9月10日

場 所：下の加江中学校および大岐の浜

内 容：古くから近隣の砂浜でウミガメの保護活動を行ってきた中学校。アカウミガメの生態と保全について講義を行い、子ガメの放流会に参加した。

担 当：田中

大豊町立 大杉中学校 海洋体験学習(2年生)

期 日：7月12日

場 所：香南市夜須町マリーナから大手の浜

内 容：平成 18 年 2 月 28 日に引き続き、文部科学省「豊かな体験活動推進事業：地域間交流プログラム」に指定されているプログラムを実施。シーカヤックでマリーナから大手の浜まで移動し、大手の浜で海の生き物と山の生き物のつながりについて講義を行い、磯の生物観察を行った。

担 当：岩瀬

高知県立 宿毛高校 校外学習（2 年生 6 名）

期 日：2 月 23 日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：「自然観察」の授業として、周辺海域の海の様子を紹介と、サンゴという生き物について知るためのワークショップ（サンゴのタイプ分け、骨格標本の観察、顕微鏡を用いた生殖腺や共生藻の観察など）を行った。

担 当：中地

（6）その他の機関への協力

牧野植物園 特別展「滅びゆく野生生物展」への協力

期 日：7 月 1～31 日

場 所：高知県立牧野植物園

主 催：滅びゆく野生生物展実行委員会・高知県文化環境部自然共生課・高知県立牧野植物園

内 容：「高知県希少野生動植物保護条例」が 7 月 1 日に施行されたことを記念して開催された特別展に、高知県におけるウミガメ類の生息状況を転じ協力した。

担 当：田中（パネル貸出）

青年会議所高知ブロック研修会

期 日：7 月 2 日

場 所：研究所および研究所前の海岸

対 象：社団法人日本青年会議所四国地区高知ブロック協議会メンバー 約 30 名

内 容：青年会議所高知ブロックの研修会 2 日目の海洋実習に協力。

担 当：中地（講師）

なはり海辺の自然学校'06

期 日：7 月 28～30 日

場 所：高知県奈半利町ふるさと海岸、米ヶ岡生活体験学校

主 催：天然資源活用委員会 共催：国立室戸青少年自然の家、奈半利町

対 象：高知県内小学校 4～6 年生

内 容：グラスボートでサンゴ鑑賞、海水浴と海の宝探し、シーカヤック体験、サンゴの話

担 当：岩瀬（講師）

海辺の達人養成講座 in 奈半利

期 日：9 月 23～25 日

場 所：高知県奈半利町ふるさと海岸、米ヶ岡生活体験学校

主 催：国土交通省四国地方整備局

対 象：18 才以上一般

内 容：スノーケリング実習、安全管理実習、海辺の生物について講義と実習

担 当：岩瀬（講師）

平成 18 年度幡多アカデミー シンポジウム「幡多地域大学を考える」

期 日：9 月 30 日

場 所：黒潮町大方あかつき館

主 催：幡多に大学をつくる会

内 容：幡多地域にどのような形で大学教育を持ち込むことが望ましいか、シンポジウム形式で討論した。シンポジウム終了後、ゼミナール形式で議論を深めた。

担 当：岩瀬（シンポジスト）

漁師と子供の森づくり

期 日：9 月 2 日

場 所：宿毛市坂本ダム（どんぐり湖）

主 催：すくも湾漁業協同組合

対 象：小学 4～6 年生 99 人

内 容：山と海のつながりについて講演後、ダムの周辺にクヌギの苗木 200 本を植樹。

担 当：野澤（講師）

（7）委員等就任

その他、平成 17 年度には財団、研究所あるいは職員は以下の委員等に就任した。

- ・ 竜串自然再生協議会 会長代理・技術支援委員（岩瀬）
- ・ 竜串自然再生協議会 全体構想ワーキンググループ座長（中地）
- ・ 竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門委員（岩瀬）
- ・ モニタリングサイト 1000 事業サンゴ礁分野ワーキンググループ メンバー（岩瀬）
- ・ 農林水産省環境相談員（岩瀬：登録番号：39013）
- ・ 高知県文化環境アドバイザー 分野：自然・環境（岩瀬）
- ・ NPO 法人黒潮実感センター 理事（岩瀬）
- ・ NPO 法人日本ウミガメ協議会 監事（岩瀬）
- ・ 環境省 足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア（岩瀬・中地・田中）
- ・ 刺胞動物等談話会（NCB）設立発起人（岩瀬）
- ・ 学術誌 Marine Biotechnology 論文審査員（ライマー）
- ・ 学術誌 Zoological Science 論文審査員（ライマー）
- ・ 学術誌 Galaxea 論文審査員（ライマー）
- ・ 大月町雇用促進協議会ワーキンググループ メンバー（中地）
- ・ 大月町体験型観光受入研究会 副会長（中地）
- ・ 宿毛市非常勤講師（中地）
- ・ 檜西小学校 開かれた学校づくり推進委員会 委員（岩瀬）
- ・ 西泊地区 役員（岩瀬）

(8) その他

HP上での情報公開

平成 14 年度より、財団ホームページ (<http://www.kuroshio.or.jp>) 上で事業及び決算内容と事業予定及び収支予算を公開している。また、ホームページ上で寄附の募集と寄附申込書、助成金の募集要項や応募フォーム、研究所の利用に必要な書類等を入手できるようにしている。

ブログ上での情報公開

昨年度からブログを立ち上げてホームページからリンクして読めるようにしており、サンゴの産卵情報を中心に新着の話題をタイムリーに提供できるようにした。

参加学会等

財団、研究所あるいは職員は以下の団体に参加している。

- ・ Asia Pacific Coral Reef Society (ライマー)
- ・ 日本動物学会 (ライマー)
- ・ 日本サンゴ礁学会 (黒潮生物研究所)
- ・ 日本動物分類学会 (岩瀬)
- ・ 日本生物地理学会 (岩瀬)
- ・ 日本藻類学会 (田中・ライマー)
- ・ 日本刺胞動物等談話会 (NCB) (岩瀬・ライマー・野澤)
- ・ 南紀生物同好会 (岩瀬)
- ・ 八重山サンゴ礁保全協議会 (岩瀬)
- ・ 日本ウミガメ協議会 (黒潮生物研究所)
- ・ 紀伊半島ウミガメ情報交換会 (黒潮生物研究所)
- ・ 土佐遊亀会 (黒潮生物研究所)
- ・ 環境の杜こうち (黒潮生物研究所)
- ・ 黒潮実感センター友の会 (黒潮生物研究所)
- ・ 竹ヶ島自然再生協議会 (黒潮生物研究所)
- ・ 足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会 (岩瀬・中地・田中)

テレビ番組の放映

- ・ 8月3日 テレビ高知 高知NOW 「特集 サンゴの産卵」
- ・ 8月7日 テレビ高知 高知NOW 「海中散歩 夜の魚たち」

新聞への掲載

- ・ 8月4日 徳島新聞 朝刊 「竹ヶ島海中公園のサンゴ、エダミドリイシ卵の採取に自然再生協が成功」
- ・ 8月25日 高知新聞 朝刊 「大月町海域 北限変えるサンゴ続々 黒潮生物研究所が確認 カービーエダサンゴなど8種 『小笠原』『奄美以南』を更新」
- ・ 10月21日 高知新聞 朝刊 「こちら黒潮『ウニ団地』!? 土佐清水市爪白沖」
- ・ 10月31日 徳島新聞 朝刊 「サンゴ増殖実験開始、竹ヶ島海中公園自然再生協」
- ・ 11月16日 高知新聞 朝刊 「西南特集『とさ発見伝』 サンゴ増殖技術 確立へ 黒潮生物研究所(大月町) 西南豪雨の汚泥除去も 開所5年 成果着実」
- ・ 11月30日 読売新聞 大阪朝刊 「世界最大級サンゴ5000万円超 重量66.8キロ 高知の入札会 = 高知」

- ・12月20日 高知新聞 朝刊 「オニヒトデ異常発生 県西南部 30年間で最大 土佐清水 大浜沖で3度目駆除」
- ・12月24日 高知新聞 朝刊 「『2006年 支社局が選ぶ5大ニュース』大月町 [5] 北限更新サンゴ続々 黒潮生物研究所の調査で町海域に国内北限を更新する8種類のサンゴを確認」
- ・3月3日 高知新聞 朝刊 「クヌギで築け 緑のダム 児童、漁師が200本植樹 宿毛市」
- ・3月6日 朝日新聞 大阪地方版/高知 「森を育て、海を育む 宿毛の漁師や児童、クヌギ植樹/高知県」
- ・3月29日 高知新聞 朝刊 「西南特集『とさ発見伝』 オニヒトデ 懸命に駆除 サンゴ守りたい 県西南部沿岸 行政予算減少 ボランティア奮闘」
- ・3月29日 高知新聞 朝刊 「マルチメディア特集 『やりゆうね』(35) ブログでサンゴ産卵情報 目崎拓真さん(28) 仙台市太白区 海中の神秘伝えたい」

6 業績(太字は財団職員)

(1) 著作

黒潮生物研究財団紀要「Kuroshio Biosphere」Vol.3, March 2007

- ・REIMER, James Davis. Preliminary survey of zooxanthellate zoanthid diversity (Hexacorallia: Zoantharia) from southern Shikoku, Japan. pp. 1-16, 7 pls.
- ・UCHIDA, Hiro'omi. Actinologia Japonica (2) On the Actinarian Family Actinernidae from Japan. pp. 17-32, 4 pls.
- ・目崎拓真・林徹・岩瀬文人・中地シュウ・野澤洋耕・宮本麻衣・富永基之. 高知県大月町西泊におけるイシサンゴ類の産卵パターン. pp. 33-47, 5pls.

黒潮生物研究財団機関誌「CURRENT」

Vol. 7, No. 1 第24号 平成18年4月25日発行

- | | |
|-------|--|
| 中地シュウ | 表紙：コブシガニ |
| 岩瀬文人 | 昨年行ったタイのシーファン修復事業の結果について |
| 目崎拓真 | さよならのかわりに。 - ロンドン滞在記 - |
| 野澤洋耕 | サンゴ研究者になりたくて・・・ |
| 中地シュウ | 足摺海域で2005年度に行われたオニヒトデの駆除状況 |
| S.N. | ヤマアイの茂る道 Vol. 6, No. 2 第21号 平成17年7月25日発行 |

Vol. 7, No. 2 第25号 平成18年7月25日発行

- | | |
|-------|--------------------------|
| 中地シュウ | 表紙：ヤッコエイ |
| 田中幸記 | カジメ植え付けによる「海の森作り」実験 中間報告 |
| 岩瀬文人 | サンゴ採卵器の改良 |
| S.N. | 初夏の魚チイキ |

Vol. 7, No. 4 第26号 平成18年10月25日発行

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 中地シュウ | 表紙：タガヤサンミナシ |
| 田中幸記 | ウニ除去による海藻植生の変化 |
| 目崎拓真 | 2006年西泊地先海域の造礁サンゴの産卵状況と初記録種について |

野澤洋耕	西泊研究所地先におけるイシサンゴ類の産卵パターンについて
岩瀬文人	西泊の海 夜の賑わい
REIMER, J. D.	スナギンチャクの種類と遺伝：私を研究人生へと導いた研究
中地シュウ	トピックス「沖ノ島で見つかったちょっと変わったオニヒトデ」
S.N.	愛南町で行われたサンゴ食巻貝のボランティア駆除

Vol. 7, No. 4 第 27号 平成 19年 1月 25日発行

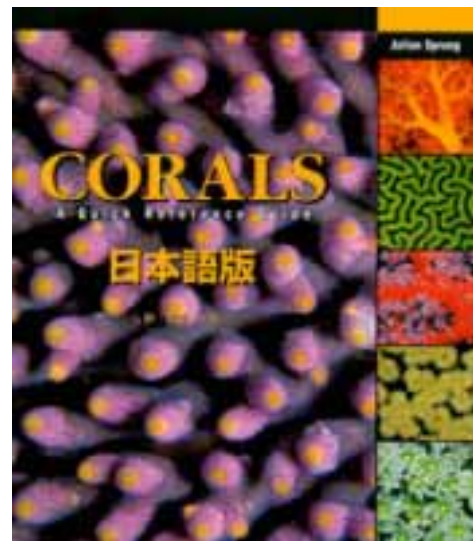
中地シュウ	表紙：ホソウスヒザラガイ
田中幸記	カジメ植え付けによる「海の森作り」実験
中地シュウ	大月町西泊地先海域によるオニヒトデの大発生
S.N.	宿毛市沖ノ島でアカオニヒトデ見つかる浜の化石

原著（査読）論文

- REIMER, J. D., K. Takishita, T. Maruyama. 2006. Molecular identification of symbiotic dinoflagellates (*Symbiodinium* spp.) from *Palythoa* spp. (Anthozoa: Hexacorallia) in Japan. *Coral Reefs* 25: 521-527
- REIMER, J. D., K. Takishita, Sh. Ono, J. Tsukahara, T. Maruyama. 2007. Molecular evidence suggesting intraspecific hybridization in *Zoanthus* (Anthozoa: Hexacorallia). *Zoological Science* 24 (3): in press
- ONO, Sh., J. D. Reimer, Junzo Tsukahara. 2007. Thriving cnidarian community on the volcanic coastline of Sakurajima Taisho Lava Field, southern Japan. *Coral Reefs* (in press).
- REIMER, J. D., Sh. Ono, Y. Furushima, J. Tsukahara. 2007. Seasonal changes in morphological condition of symbiotic dinoflagellates (*Symbiodinium* spp.) in *Zoanthus sansibaricus* (Anthozoa: Hexacorallia) in Southern Japan. *South Pacific Studies*, 27(2):1-23.
- REIMER, J. D., K. Takishita, Sh. Ono, T. Maruyama. 2007. Diversity and evolution in the zoanthid genus *Palythoa* (Cnidaria: Hexacorallia) utilizing nuclear ITS-rDNA. *Coral Reefs* 26: (in press) DOI 10.1007/s00338-007-0210-5
- REIMER, J. D., S. Hirano, Y. Fujiwara, F. Sinniger, T. Maruyama. 2007. Morphological and molecular characterization of *Abyssoanthus nankaiensis*, a new family, new genus and new species of deep-sea zoanthid (Anthozoa: Hexacorallia: Zoantharia) from a northwest Pacific methane cold seep. *Inv. Systematics* (in press).

その他

- HAYASHI, T., F. Iwase. 2006. Artificial breeding method of *Acropora hyacinthus* (Scleractinia, Cnidaria). *Proc. 10th. Int. Coral Reef Sym.* : 1684-1688.
- KIMURA, T., H. Hasegawa, T. Igarashi, M. Inaba, K. Iwao, F. Iwase, K. Kajiwara, T. Matsumoto, T. Nakai, S. Nojima, K. Nomura, M. Nonaka, K. Oki, K. Sakai, K. Simoike, K. Sugihara, M. Ueno, S. Ueno, H. Yamano, H. Yokochi & M. Yoshida. 2006. Status of Coral Reefs in Japan. *Proc. 10th. Int. Coral Reef Sym.* : 1068-1076.



- ・田中幸記・石原考．2006．成熟過程で再捕獲されたアカウミガメの尾部伸長の記録．ウミガメニュースレター，68：10．

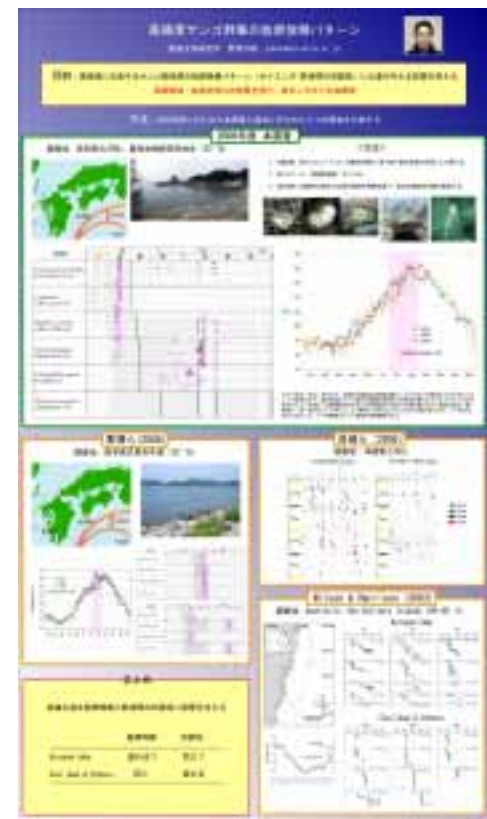
翻訳本の出版

- ・SPRUNG, J.著 / 岩瀬文人訳 2006年．「Corals: a quick reference guide 日本語版」.ブルーハーパー(大阪)，240 pp.

(2) 講演等

学会等

- ・岩瀬文人・深見公雄・目崎拓真・野澤洋耕．2006.11.24-26．イシサンゴ類幼生の着生場所の選択について．日本サンゴ礁学会第9回大会(仙台)．(ポスター発表)
- ・REIMER, J.D., Sh. Ono, F. Iwase．2006.11.24-26. Molecular characterization of the zoanthid genus *Isaurus* (Anthozoa: Hexacorallia). 日本サンゴ礁学会第9回大会(東北大学, 仙台)．(ポスター発表)
- ・野澤洋耕．2006.11.24-26．高緯度サンゴ群集の放卵放精パターン．日本サンゴ礁学会第9回大会(仙台)．(ポスター発表)
- ・目崎拓真・岩瀬文人・中地シュウ・野澤洋耕・宮本麻衣．2006.11.24-26．2006年高知県大月町西泊における造礁サンゴの産卵状況と *Acropora solitaryensis* 2形態の生殖の特徴．日本サンゴ礁学会第9回大会(仙台)．(ポスター発表)
- ・宮本麻衣・横地洋之・岩瀬文人．2006.11.25. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 2004 - 2006. 日本サンゴ礁学会第9回大会(仙台)．(ポスター発表)
- ・野澤洋耕．2007.03.20-22. 高緯度サンゴ群集の放卵放精パターン．日本生態学会第54回大会(松山)．(ポスター発表)
- ・田中幸記・平岡雅規．2007.03.23-25. 高知県西部海域の海藻植生(中間報告)．日本藻類学会第31回大会(神戸)．(ポスター発表)
- ・田口尚弘・岩瀬文人・関田諭子・大谷和弘・深見公雄・富永明．2006.05.27-28. サンゴ胚からの長期細胞培養株．第9回マリンバイオテク

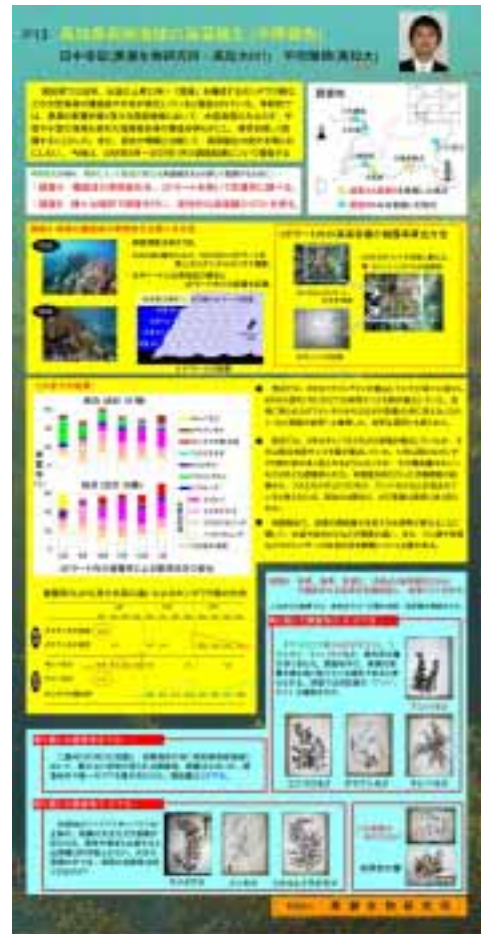


ノロジー学会（東京）。

- ・野澤洋耕 .2006.10.07-08. 2006 年度夏より開始したサンゴの生殖・定着過程についての研究の中間報告 .第 2 回日本刺胞動物等談話会 (NCB) (勝浦) 。
- ・REIMER, J. D., S. Hirano, Y. Fujiwara, F. Sinniger, T. Maruyama. 2006.10.07-08. Morphological and molecular characterization of *Abyssoanthus nankaiensis*, a new family, new genus and new species of deep-sea zoanthid (Anthozoa: Hexacorallia: Zoantharia) from a northwest Pacific methane cold seep. 第 2 回日本刺胞動物等談話会 (NCB) (勝浦) 。

その他（招待講演等）

- ・REIMER, J. D. 2006.10.30. Evolution and diversity in the Order Zoantharia. Faculty of Science, National University of Singapore (シンガポール)
- ・REIMER, J. D. 2006.12.16. スナギンチャク目の多様性と進化 .平成 18 年度 (最終年度) 研究成果報告会・外国人研究者による特別講演 .日本大学海洋生物資源教育研究センター (藤沢)
- ・REIMER, J. D. 2007.01.23. スナギンチャク類の多様性と進化 .公開セミナー・海洋生物生産学講座/The 21st Century COE Program .琉球大学理学部海洋自然科学科生物系 (西原)
- ・REIMER, J. D. 2007.03.03. Diversity in the Order Zoantharia. The Charles Darwin Galapagos Coral Reef Initiative. Aboard the TipTop IV (ガラパゴス)



(3) 調査報告書等

- ・平成 18 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域サンゴ礁モニタリング業務報告書, 2007.02 .財団法人黒潮生物研究財団受注 (財団法人自然環境研究センター発注)
- ・平成 18 年度竜串自然再生事業海域調査業務報告書, 2007.03 .財団法人黒潮生物研究財団受注 (環境省中国四国地方環境事務所発注)
- ・平成 18 年度竹ヶ島海中公園海陽 自然再生事前調査 担当部分報告書, 2007.03. 財団法人 黒潮生物研究財団受注 (株式会社ニタコンサルタント発注)

(4) 研究所利用者の業績

助成研究

- ・甲斐清香 (琉球大学 院 理工) 環境条件がサンゴの生存、成長、繁殖に及ぼす影響 ~ 環境に対するサンゴの適応方法の解明 ~ .

- ・加藤芽衣（高知大学 院 農）サンゴ食巻貝 *Drupella* 類の誘因物質の探索．
- ・原口展子（高知大学 院 黒潮圏海洋科）高知県西部海域のホンダワラ類の分布変化について．
- ・松島夏苗（お茶の水女子大学 院 人間文化）巻貝による造礁サンゴ食害：温帯域における新規脅威種の実態調査．
- ・的場洋右（高知大学 院 農学）サンゴが周辺海域の水質環境に与える影響．
- ・宮本麻衣（東海大学 院 海洋）四国西南海域における造礁サンゴ群集の動態と幼生加入に関する研究．

研究所利用修士論文

- ・的場洋右．2007.03. サンゴの分泌有機物が周辺海域の浮遊微生物群集に与える影響に関する研究．高知大学大学院農学研究科．

研究所利用卒業論文

- ・渡邊美穂．四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 - 2006 年．東海大学海洋学部

学会等

- ・宮本麻衣・横地洋之・岩瀬文人．2006.11. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 2004 - 2006．日本サンゴ礁学会第 9 回大会（東北大学）
- ・甲斐清香・酒井一彦．2007.03. 物理的環境が群体性サンゴの個体群構造と生存、成長に及ぼす影響．琉球大学 H18 年度 COE 成果発表会（琉球大学）
- ・松島夏苗・清本正人・服田昌之．2007.03. サンゴヤドリは本当にサンゴ食か？ 日本動物学会関東支部第 59 回大会（首都大学）
- ・的場洋右・深見公雄・K. Shashank．2006.11. 微生物食物連鎖の増殖基質としてのサンゴ粘液の役割．日本サンゴ礁学会第 9 回大会（東北大学）

7 研究所利用者

下記のとおり研究所の利用者があった。

一般研究者	2 名	延べ	7 日人
大学教員	5 名	延べ	14 日人
大学院生	12 名	延べ	452 日人
大学生	5 名	延べ	254 日人
一般	2 名	延べ	21 日人
合計	26 名	延べ	748 日人

長期滞在者としては東海大学の大学院生と4年生が半年以上滞在中に修論および卒論研究を、東北大学の大学院生が2ヶ月以上滞在中に博論研究を行った。高知大学大学院生および4年生が頻りに来所して博論・修論・卒論研究を行った。一般の内1名は竹ヶ島海中公園自然再生の調査を担当しているコンサルタント会社の社員で、サンゴの増殖手法を研修し、もう1名はサンゴの産卵の撮影のために研究所を利用した。他は短期滞在による調査や採集、データの収集であった。

利用者の所属の内訳は、

東北大学	1 名
お茶の水女子大学	2 名
東京大学	1 名
東海大学	5 名
広島大学	1 名
愛媛大学	1 名
高知大学	9 名
鹿児島大学	2 名
大学以外	4 名
<hr/>	
合計	26 名

となっており、北は東北大学、南は鹿児島大学までの8大学と大学以外に所属する4名の方々によって利用された。

8 寄 附

当財団では以下の要領で一般に寄附金を募っている。

募集期間：随時

対 象：当財団の活動にご賛同いただける個人・団体・法人

金 額：金額は自由です。

免税措置：当財団は特定公益増進法人の認定を受けておりますので、ご寄附を行われた場合には、所得控除や損金算入など税法上の優遇措置が受けられます。

特 典：1,000円以上ご寄附をいただいた方には、ご寄附をいただいた年度に発行する当法人機関誌「CURRENT」（季刊年4回発行）をお送りいたしております。また、10万円以上ご寄附をいただいた方には、学術誌「Kuroshio Biosphere」（年1回発行）もお送りいたしております。

平成18年度には、個人7名、法人5社からご寄附をいただき、寄附金総額は26,376,000円だった。

ご寄附いただいた企業

ステラケミファ株式会社
有限会社ブルーハーバー
株式会社シーピーファーム
株式会社東京久栄
株式会社エコー

ご寄付いただいた個人

深田理事長、島田さま、早瀬さま、国沢さま、安達さま、新谷さま、氏名の公表を
望まれない1名の方

謹んで御礼申し上げます。